



弘田 龍太郎 氏
(音楽之友社刊「弘田龍太郎作品集」より)

今日、誰もが一度は歌ったことのある童謡、「靴が鳴る」「浜千鳥」「雀の学校」「春よ来い」などを作曲した人物、弘田龍太郎氏。今年、生誕120年を迎えます。龍太郎氏は、明治25（1892）年6月30日、現在の高知県安芸市に生まれました。津市との関わりは、明治35（1902）年11月に、父弘田正郎氏が千葉県師範学校（現千葉大学）校長から三重県立第一中学校（現三重県立津高校）校長に赴任することになり、一家が津に転居したことに始まります。このとき10歳の龍太郎氏は、養正小学校に転入し、卒業後、三重県立第一中学校に進学して、津でおよそ7年間の少年時代を過ごしました。中学校時代は、無口な方で、こつこつと勉強するタイプの生徒であったといわれています。このころ、作曲家としての片りんを示すエピソードに、中学一年生当時の明治38（1905）年、日露戦争の戦勝報告が入り、町中で旗行列やちよ



津高校にある「浜千鳥」の楽譜が刻まれた記念碑

うちん行列が行われ、太鼓やラッパの楽隊が行進すると、その曲を聴いてすらすらと譜面に起こしたといわれます。中学卒業後は、東京音楽学校（現東京芸術大学）に進み、在学中から作曲活動を始めます。龍太郎氏が最も精力的に作曲したのは、大正7～8（1918～1919）年ごろです。この当時、子どもにもっと自由な夢や感情を訴える新しい児童文学・芸術運動を目指した児童文学雑誌「赤い鳥」に作曲家として協力したことがきっかけでした。この頃から、およそ5年ほどの間に、今でも歌い継がれる童謡・歌曲が生まれ、龍太郎氏の作曲活動のなかで最も花開いた時期でした。そして、少年時代を過ごした津の情景などは、その創作活動に影響を与えたといわれています。晩年は、幼児教育に重要性を感じて、長女夫妻が創設した幼稚園の園長になり、幼児のためのリズムなども作曲して、音楽を幼児教育へ積極的に取り入れました。しかし、昭和27年11月17日、60歳と



アストホールロビーにある龍太郎氏愛用のグランドピアノ

周年を記念して津高同窓会によって建てられた記念碑があり、「浜千鳥」の楽譜が刻まれています。また、アスト津4階アストホールのロビーには、昭和3年ドイツ留学の際に買い求め、龍太郎氏が愛用していたグランドピアノと、昭和初期発行の楽譜集が展示されています。

（「広報津」平成24年7月16日号）

いうまだまだこれからという年齢で惜しくも亡くなっています。現在、龍太郎氏が在学していた津高校中庭には、平成2年津高110